



文差する歴史と神話
みやざき発掘100年

ひさか 15号



〈縄文時代早期の竖穴住居跡〉



だごや 駄小屋遺跡〈延岡市〉～山とともに生きた先人たち

駄小屋遺跡は五ヶ瀬川中流域の左岸、標高99～115mの尾根付近に位置し、縄文時代早期を中心とする遺跡です。約7,300年前の鹿児島県鬼界カルデラ（薩摩硫黄島付近）の大噴火によるアカホヤ火山灰が広く堆積しており、その下から多くの遺構・遺物が見つかりました。比較的平坦な部分で竪穴住居跡2軒や平地式住居跡1軒、集石遺構（焼いた石で食物を蒸す調理場跡）約90基、風通しのよい斜面部分で炉跡12基などの遺構を検出しました。特に、縄文時代早期の竪穴住居跡は珍しい例で、宮崎県では王子山遺跡（都城市）、別府原遺跡（西都市）、内屋敷遺跡（小林市）などが挙げられます。また、集石遺構は使用済みの集石を再利用して新たな集石を作ったと考えられるものもあり、たいへん興味深いです。石鏃や石斧、敲石、磨石、台石などの石器や多くの土器も出土しており、縄文時代早期の人々が生活の場として利用していたことがうかがえます。

遺跡と東九州自動車道

蒲江～北浦間、須美江～延岡間、都農～高鍋間
開通記念

東九州自動車道は平成24年度に蒲江～北浦間、須美江～延岡間、都農～高鍋間が開通しました。当センターでは、高速道路建設に伴う工事に先だって平成13年度から埋蔵文化財調査を行ってきました。調査対象遺跡は県境～北浦間、須美江～延岡間で7遺跡、都農～高鍋間で44遺跡にもなります。遺跡からは、旧石器時代から江戸時代（近世）まで多くの遺構・遺物が発見されました。今回はその一部を紹介します。



弥生・古墳時代の竪穴住居跡などが検出されました。弥生時代の住居跡からは大分地域に見られるタイプの竪穴が見つかり、古墳時代になると、五ヶ瀬川流域や日向地域と類似する竪穴が見つかりました。時代による文化圏が大きく変化している様子がわかります。



竪穴住居跡

中野内遺跡 (延岡市北浦町)

古墳時代では、4基の古墳が確認され、主体部からは古墳時代中期前半の鉄鏃や鉄剣、刀子が出土しています。中世では、古墳を利用して曲輪が構築されており、大走り状遺構を検出しています。明治10年に勃発した西南戦争で、遺跡周辺は激戦の舞台となっています。その戦争を物語るようにスナイドル銃の銃弾が2点出土しています。



出土鉄剣

家田古墳群 家田城跡 (延岡市北川町)

後期旧石器時代の礫群や縄文時代早期の集石遺構、近世の石組遺構などが検出されました。特に、約2万8千年前に鹿児島県の姪良カルデラから噴出した火山灰（AT）より下の層から石器が出土したことが注目されます。出土した石器は局部磨製石斧（刃先に磨きかけた石斧）といい、県内でも出土数が少なく貴重な資料です。



局部磨製石斧

尾立第2遺跡 (児湯郡都農町)

弥生時代終末の周溝状遺構や中世から近世の掘立柱建物跡、溝状遺構、中世墓等を検出しました。中世から近世の集落を区画するための区画溝も検出され、これらは掘立柱建物跡と同じ時期に作られた可能性が考えられます。調査区全体からは中世から近世の陶磁器（輸入・国産陶磁器）が豊富に確認され、当時の生活の様子を知ることができます。



区画溝と掘立柱建物跡

前ノ田村上第1遺跡 (児湯郡川南町)

尾花A遺跡 (児湯郡川南町)



竪穴住居跡群

旧石器時代から近世にかけて多くの遺構・遺物が確認された複合遺跡です。弥生時代の終わり頃から古墳時代中頃の住居跡が200軒程検出されており、県内でも最大規模を誇る小丸川流域の拠点集落です。谷を隔てて北西側には川南古墳群、南東側には持田古墳群が分布しており、それらの古墳築造に関わりを持つ人々が暮らした集落と考えられます。



— 北方延岡道路
— 東九州道 平成24年度開通区間
— 東九州自動車道
- - - 東九州自動車道 (未開通区間)

埋蔵文化財センターの主なイベント

◆特別展『みやざき発掘 100 年—いにしへの「道」と交流—』 無料



東九州自動車道の整備事業においては、建設工事に先立って平成7年度から大規模な発掘調査が行われ多くの成果が上がっています。その膨大な資料には、先人達が陸上あるいは海の道を通じて他地域と交流していた姿が深く刻まれています。本展覧会は東九州自動車道関連の遺跡を中心に、西都原発掘調査以来100年にわたる宮崎の発掘調査の成果を、東九州道開通を契機に一挙に公開し、先人の歩んだ道と交流について考える展覧会です。

主催：宮崎県埋蔵文化財センター
宮崎県総合博物館
期日：平成 25 年 10 月 12 日（土）～同 12 月 8 日（日）
会場：宮崎県総合博物館 2 階特別展示室
料金：無料
休館：火曜日

◆記念講座「みやざき発掘 100 年物語」 13:30～15:00 申込不要 **5 回シリーズ無料**

シリーズ 1 「すべてはここから始まった」 —西都原古墳群の発掘調査—

期日：平成 25 年 5 月 26 日（日）
講師：北郷 泰道（宮崎県教育委員会文化財課）
会場：総合博物館研修室 1
内容：大正初期に宮崎県が高名な考古学者を招聘し全国に先駆けて実施した学術的、本格的な発掘調査である西都原古墳群の発掘調査をエピソードをまじえて解説します。



シリーズ 3 「発掘調査に追われた日々」 —経済成長期からバブル崩壊へ—

期日：平成 25 年 10 月 20 日（日）
講師：若永 哲夫（宮崎考古学会会長）
会場：総合博物館研修室 1
内容：全国的な発掘調査の最盛期といえる高度経済成長期からバブル経済期にかけて行われた多様な発掘調査事例について解説します。



シリーズ 2 「戦後の宮崎県の考古学調査」 —宮崎県と私の関わり—

期日：平成 25 年 7 月 7 日（日）
講師：小田 富士雄（福岡大学名誉教授）
会場：県立図書館視聴覚室（この回のみ会場が異なります）
内容：宮崎県の戦後における発掘調査の中から日向国分寺と菊田麻跡について発掘調査に関わった県外在住の講師が解説します。

<関連展示会>

「発掘された遺物たち 2013 展」

発掘調査が終了し報告書を新たに発行した遺跡の出土遺物速報展示を行います。また、7 月 7 日に開催される小田富士雄先生の講座に関連し、発掘に関わられた日向国分寺と菊田麻跡の出土遺物を展示します。

期日：平成 25 年 7 月 6 日（土）～7 月 15 日（月）

※ 7 月 8 日（月）は休館

会場：宮崎県立図書館 2 階特別展示室



シリーズ 4 「高速交通網を整備せよ」 —東九州自動車道の発掘調査—

期日：平成 25 年 11 月 10 日（日）
講師：長津 宗重（宮崎県埋蔵文化財センター）
会場：総合博物館研修室 1
内容：平成 7 年から 18 年の歳月を費やして発掘調査を実施した東九州自動車道関係の約 160 遺跡についてその成果を解説します。



シリーズ 5 「考古学に何が出来るか」 —これからの遺跡の活用—

期日：平成 26 年 2 月 16 日（日）
講師：北郷 泰道（宮崎県教育委員会文化財課）
会場：総合博物館研修室 1
内容：考古学が私たちの未来や社会の発展にいかんにか寄与できるか・・・考古学の役割と未来を展望します。

